

イーストスプリング インド投資マンスリー

2022年5月号

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号

加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。

最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

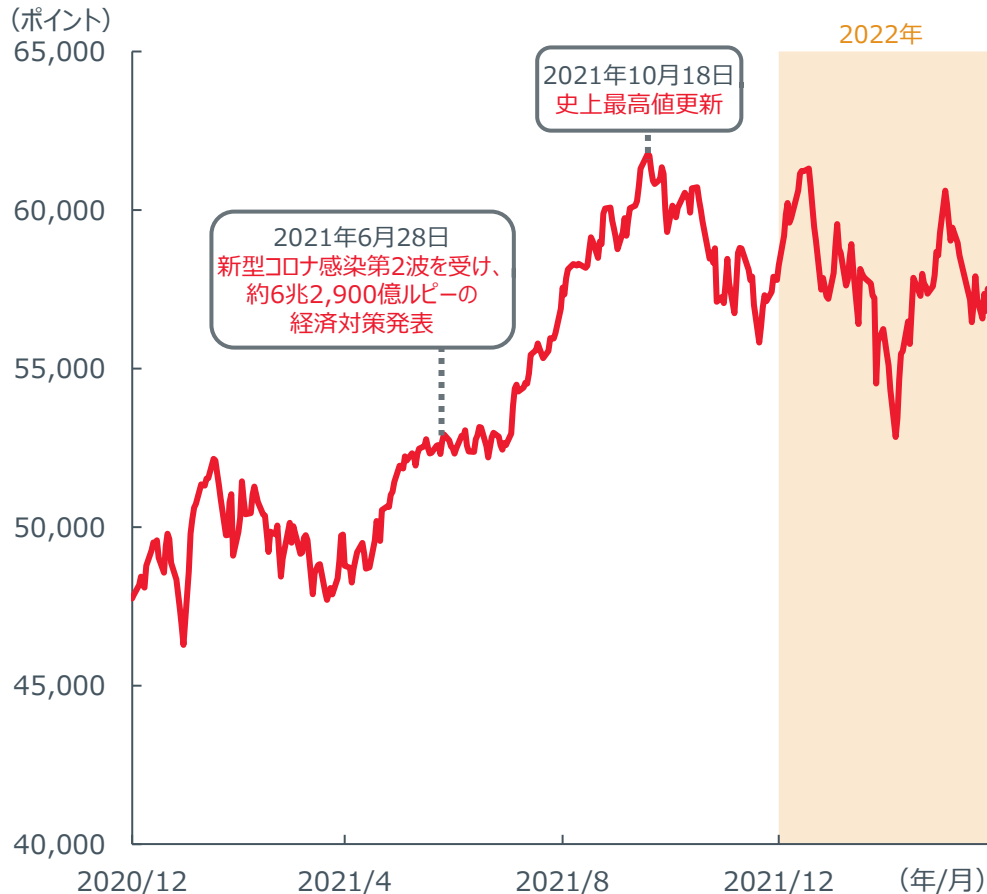
この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

インド投資マンスリー
動画配信中！



株式：高インフレの継続、米国利上げへの懸念などから下落

SENSEX指数の推移（日次、2020年12月末～2022年4月末）



2022年4月の振り返り

インド株式市場は、債券利回りの上昇、高インフレの継続、中国における新型コロナウイルス感染者数の急増、ウクライナ情勢の長期化、米FRB（連邦準備制度理事会）による積極的な利上げへの懸念などから下落しました。

規模別では、中型株と小型株が大型株を上回りました。また、セクター別では情報技術、金融、コミュニケーションサービスが市場平均*を下回った一方、公益事業は上回りました。

海外機関投資家は、4月も引き続き売り越し、7ヵ月連続での純流出となりました。一方、国内機関投資家は引き続き買い越し、2021年3月以降の純流入を維持しました。

規模別指数の期間別騰落率（2022年4月末時点）

	1ヵ月間	3ヵ月間	6ヵ月間
大型株 (SENSEX指数)	-2.6%	-1.6%	-3.8%
中型株 (BSE中型株指数)	1.3%	-0.8%	-3.4%
小型株 (BSE小型株指数)	1.4%	-2.1%	2.2%

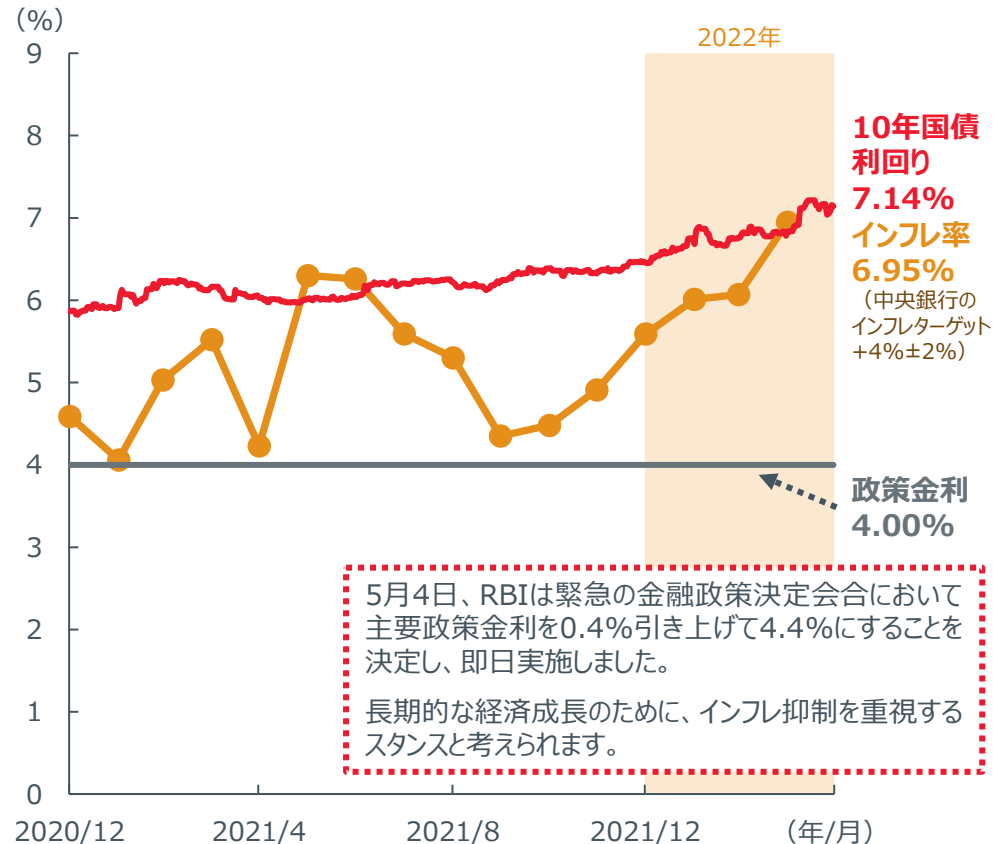
出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

*MSCI Indiaにおける比較。※すべて配当無し（プライス）、インドルピーベース。

債券：インフレ率、債券利回りともに上昇

政策金利*、インフレ率**、10年国債利回りの推移

(日次、2020年12月末～2022年4月末)



2022年4月の振り返り

インド準備銀行（RBI、中央銀行）は8日に行われた金融政策決定会合で、政策金利を11会合連続で4.00%に据え置きました。また、リバースレポレート（政策金利下限）を3.35%に据え置く一方、「常設預金ファシリティ」を新設し3.75%に設定、実質的に下限金利を0.40%引き上げました。

声明文でも、インフレ抑制に焦点を当てるなどタカ派的な内容となったことから、債券利回りは上昇しました。10年国債利回りは1カ月で0.30%上昇し、7.14%で月を終えました。

3月の消費者物価指数（CPI）は燃料価格、食料品価格の上昇などを背景に前年同月比で+6.95%となり、3カ月連続でインフレ目標の上限6%を上回りました。

債券利回りと利回り差の変化幅

	2022年4月末	2022年3月末	変化幅
10年国債利回り	7.14%	6.84%	+0.30%
10年社債利回り***	7.32%	7.17%	+0.15%
利回り差	0.18%	0.33%	-0.15%

出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

*レポ金利、**消費者物価指数（CPI）上昇率（前年同月比）、同項目のみ月次。新基準（2012年=100）による統計を使用。2022年3月まで。

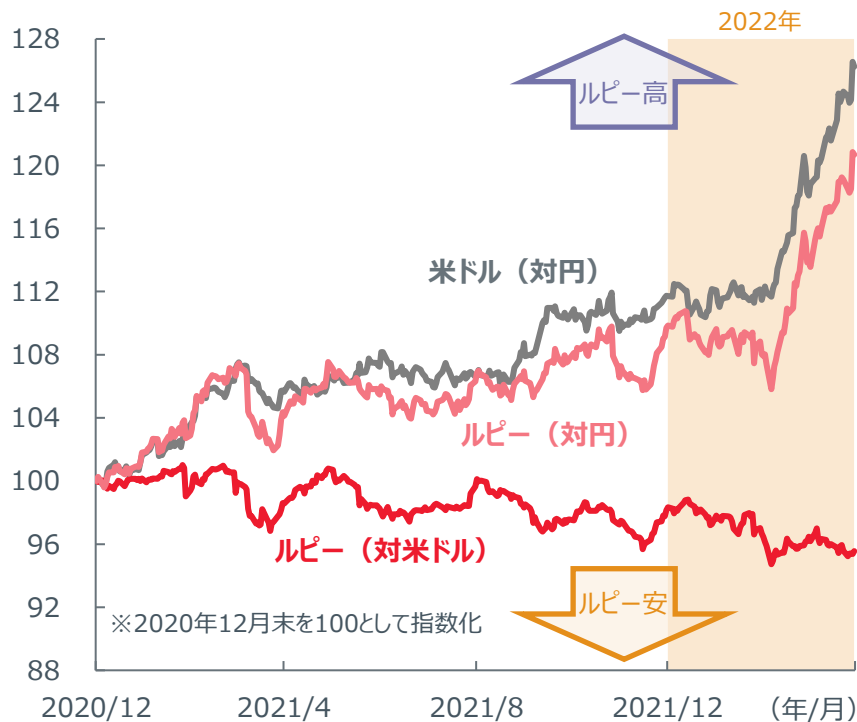
***10年社債利回りはBloomberg FIMMDA India Corporate Bond Curve AAA Year Corporateの利回りを使用。

為替：ルピーは対米ドルで下落、対円では上昇

- 4月のルピーは、対米ドルで0.9%の下落、対円では5.9%の上昇となりました。
- 2020年以降のルピーの動きをみると、他の新興国通貨に比べて対米ドルで相対的に安定した推移となっています。

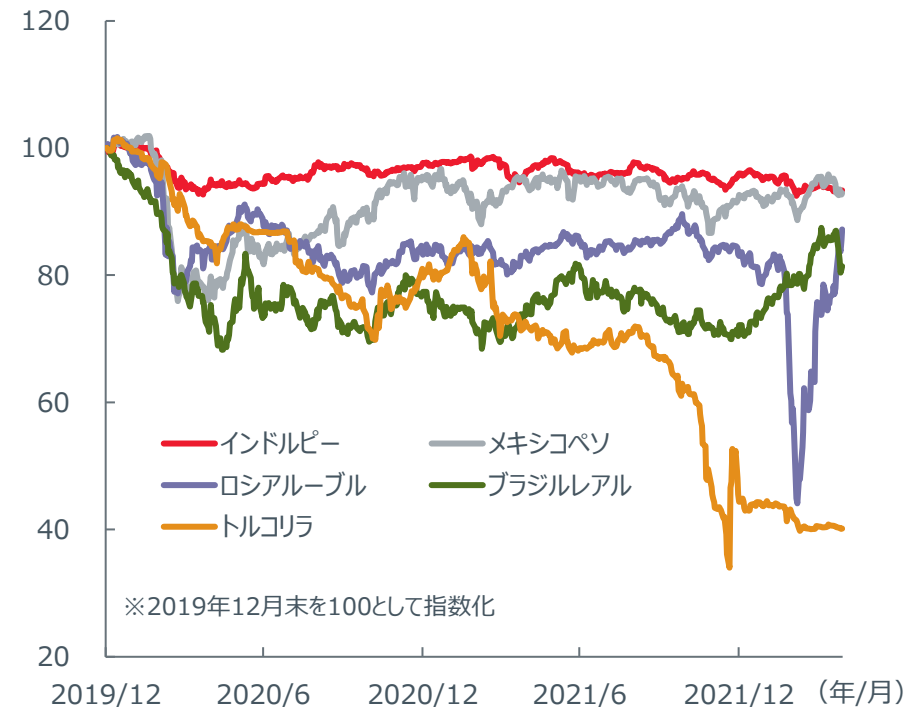
ルピー（対円、対米ドル）の推移

（日次、2020年12月末～2022年4月末）



主要新興国通貨（対米ドル）の推移

（日次、2019年12月末～2022年4月末）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

IMF世界経済見通し ～ほぼすべての地域で下方修正に～

- IMF（国際通貨基金）は4月19日に最新の「世界経済見通し（2022年4月）」を発表し、2022年の実質GDP成長率を3.6%と前回（2022年1月）から0.8%ポイント引き下げました。ロシアのウクライナ侵攻が燃料と食料価格の急上昇を招いており、インフレ抑制に向けた各国の利上げがリスク要因になるとしています。
- インドについては、2022年、2023年ともに下方修正となりました。原油など商品価格の高騰が個人消費と投資を圧迫する可能性が高いとの見解を示しました。

主要国・地域の実質GDP成長率見通し

（単位：％、2021年～2023年）

		2021年	2022年		2023年		
		(実績)	(予測)	前回差	(予測)	前回差	
世界		6.1	3.6	-0.8	3.6	-0.2	
	先進国		5.2	3.3	-0.6	2.4	-0.2
		米国	5.7	3.7	-0.3	2.3	-0.3
		ユーロ圏	5.3	2.8	-1.1	2.3	-0.2
		日本	1.6	2.4	-0.9	2.3	0.5
	新興国		6.8	3.8	-1.0	4.4	-0.3
		インド	8.9	8.2	-0.8	6.9	-0.2
		中国	8.1	4.4	-0.4	5.1	-0.1
		ASEAN5*	3.4	5.3	-0.3	5.9	-0.1
		ロシア	4.7	-8.5	-11.3	-2.3	-4.4
ブラジル	4.6	0.8	0.5	1.4	-0.2		

出所：IMF世界経済見通しデータベース（2022年4月）のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

*ASEAN5は、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム。

※インドのデータは年度ベース。例えば、表の「2021年」は2021年4月から2022年3月末まで。

インドのマクロ経済は過去の経済ショック時と比べて良好な状況

■ 世界金融危機やバーナンキ・ショック時と比較して、現在のインドの経済基盤は安定していることがわかります。

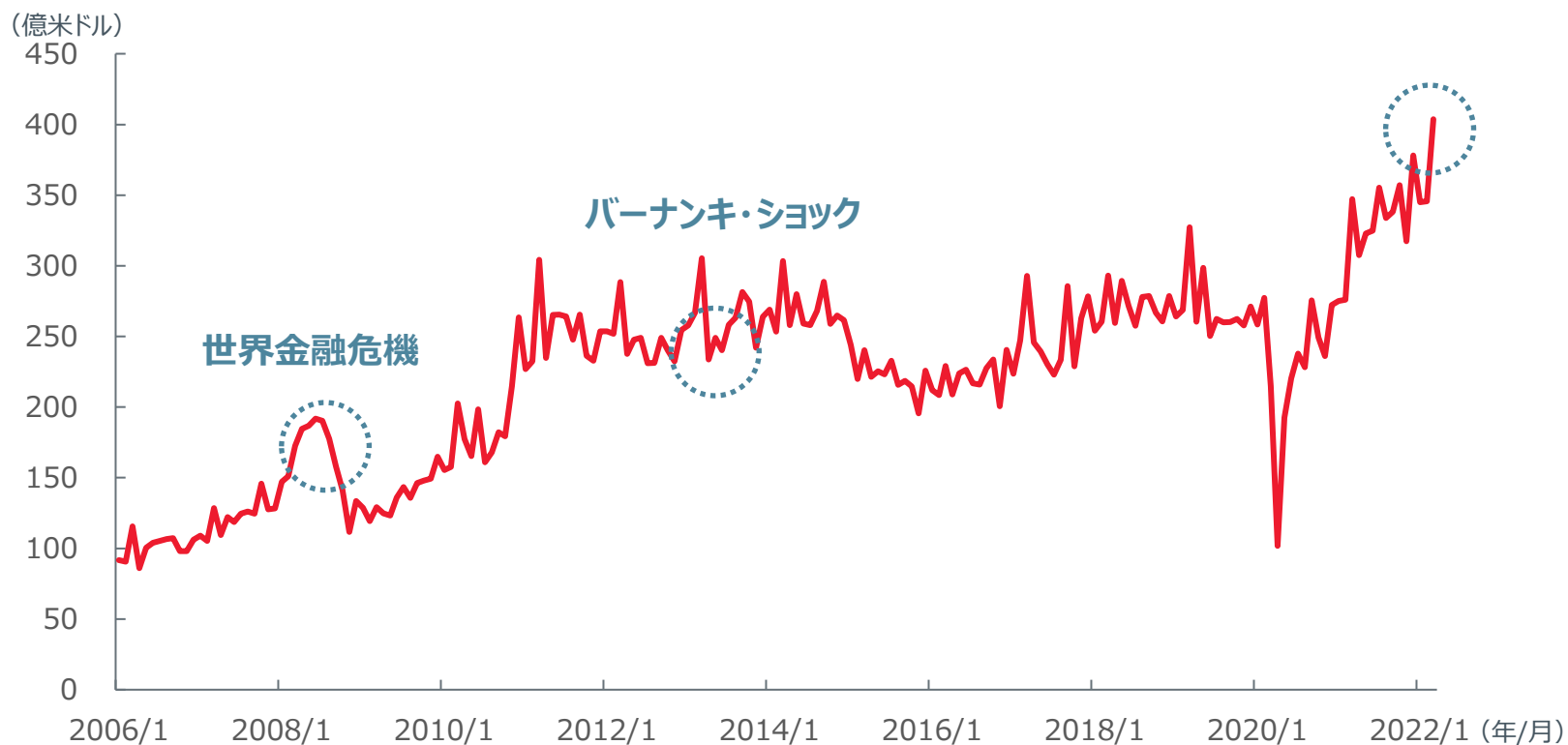
マクロ経済指標	世界金融危機 (2008-09年)	バーナンキ・ショック (2012-13年)	コロナショック	
インフレ率 (%)	9.1	9.4	5.2 (2021年4-12月)	改善
財政収支 (対GDP比、%)	-8.3	-6.9	-6.9 (2020-21年度)	横ばい
経常収支 (対GDP比、%)	-2.3	-4.8	-0.2 (2021年4-9月)	改善
対外債務 (対GDP比、%)	20.7	22.4	18.2 (2021年12月)	改善
外貨準備 (10億米ドル)	252	292	604 (2022年4月8日)	改善
海外直接投資 (10億米ドル)	8.3	34	74 (2021年1-12月)	改善
10年国債利回り (%)	7.3	8	6.8 (2022年3月31日)	低下

出所：ICICIAMのデータを基にイーストスプリング・インベストメンツ作成。
 ※インドの会計年度は4月から翌年3月まで。例えば2021年度は2021年4月～2022年3月まで。

インドの輸出は拡大傾向で推移

- インドの輸出は好調に推移しています。政府による様々な構造改革により、輸出は今後更に増加すると予想されています。

インドの商品輸出額の推移（月次、2006年1月～2022年3月）

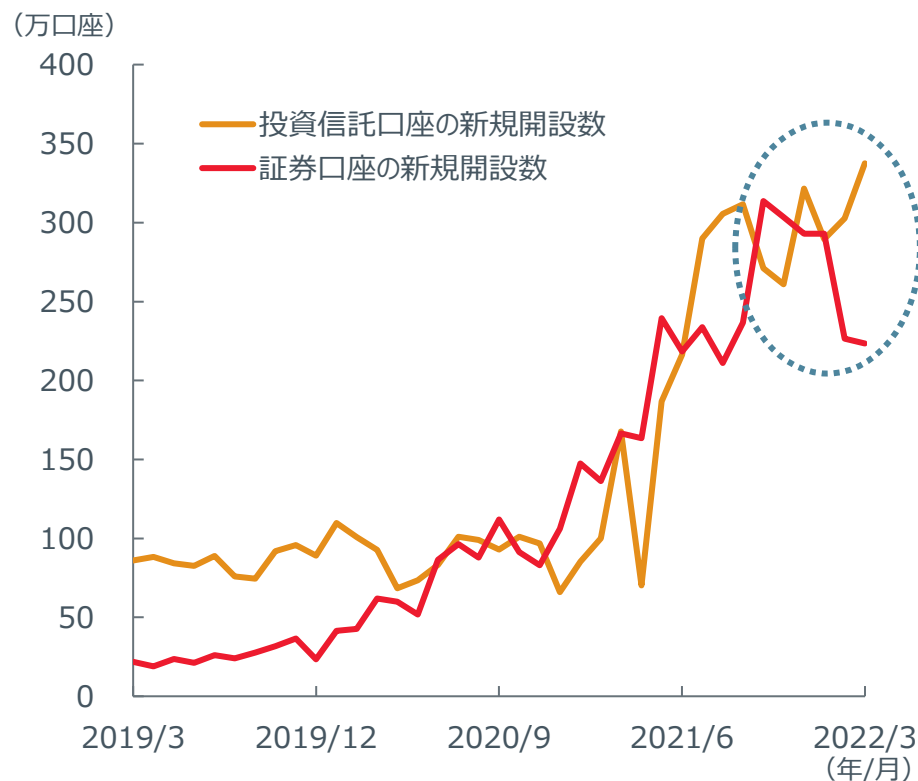


出所：ICICIAMのデータを基にイーストスプリング・インベストメンツ作成。

国内個人投資家からの資金流入は引き続き堅調

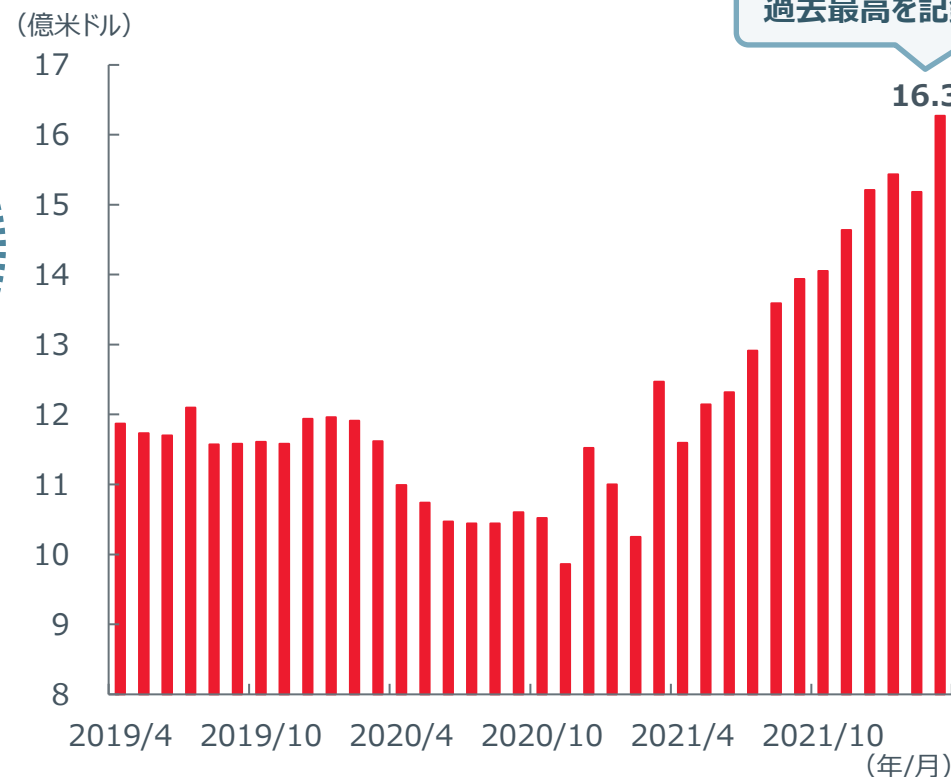
投資信託口座と証券口座の新規開設数の推移

(月次、2019年3月～2022年3月)



投信積立口座からの資金流入額の推移

(月次、2019年4月～2022年3月)



出所：ICICIAMのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

【ご参考】オーストラリアとFTA（自由貿易協定）で暫定合意



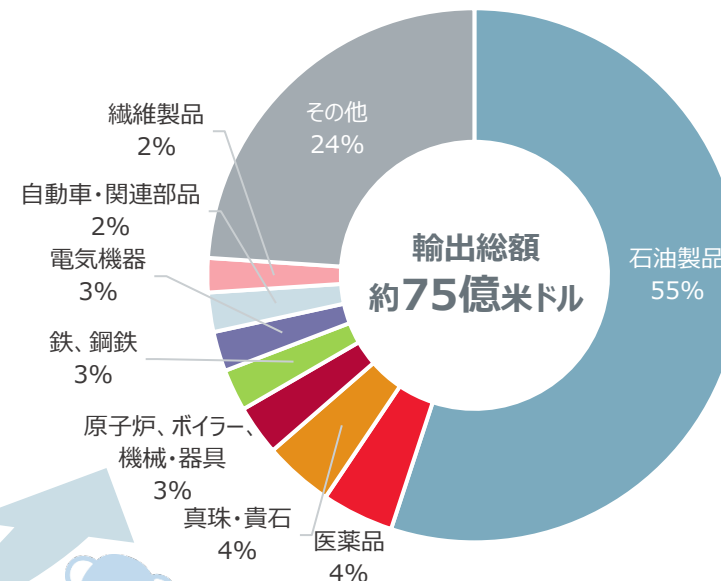
2022年4月、インドとオーストラリアは暫定的なFTA（自由貿易協定）を締結することで合意したことを発表しました。インド・オーストラリア間のFTAについては共同研究を経て、2011年5月に交渉開始で合意したものの、その後交渉が中断し、2021年に交渉が再開していました。インドからオーストラリアへの輸出の96%の関税が即時撤廃されます。

インドの輸出相手国・地域（2021年度*）

- 輸出相手国としては**15位**（輸入相手国としては11位）となっており、今後の経済効果が期待されます。

	国・地域名	輸出額 (億米ドル)
1	米国	684
2	アラブ首長国連邦	250
3	中国	198
4	バングラデシュ	146
5	オランダ	107
6	シンガポール	102
7	香港	100
8	英国	94
9	ドイツ	89
10	ベルギー	88
15	オーストラリア	75
	合計	3,774

オーストラリアへの輸出品目別割合（2021年度*）



インドとオーストラリアは日本・米国と共に4か国による協力枠組みであるクアッド（Quad）に参加しており、経済面だけでなく、安全保障の面でも更なる連携が進むか注目されています。

出所：インド商工省のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

*2021年度は2021年4月から2022年2月まで。

当資料に関してご留意いただきたい事項

- 当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。
- 当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。
- 当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

※ MSCI指数はMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

※ 業種区分は、原則としてMSCI/S&P GICSに準じています。GICSに関しての知的財産権は、MSCI Inc.およびS&Pにあります。